



特集

上十三・十和田湖広域定住自立圏共生ビジョン策定

# 定住圏スタート



地方圏で進む深刻な人口減少、少子高齢化。これに対応するためには、市町村の枠を超えて、「圏域」として連携し、生活機能を確保することが求められます。十和田市と三沢市を中心市として形成された「上十三・十和田湖広域定住自立圏」は、平成25年3月に圏域の将来像や具体的取り組みについてまとめた「共生ビジョン」を策定しました。将来も安心して住み続けられる地域をつくるために、圏域が一体となってスタートラインに立ちました。

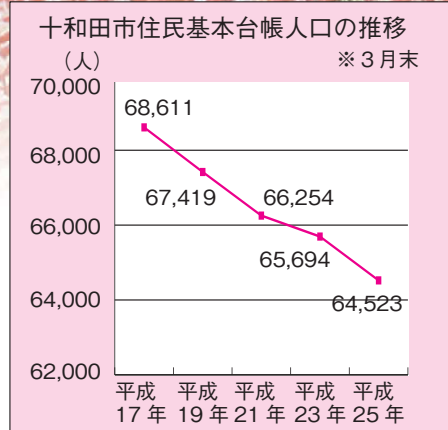
MEMO 上十三・十和田湖広域定住自立圏の歩み

平成22年	02.18	上十三地域広域市町村圏協議会（以下「協議会」）で検討協議会市町村長会議で定住自立圏構想について検討することを決定
	07.14	定住自立圏構想担当者会議を開催
平成23年	02.07	協議会市町村長会議で定住自立圏構想推進を決定関係市町村の提案を募り、具体的な連携事項の検討を開始
	03.29	十和田市と三沢市による共同中心市宣言
平成24年	06	秋田県小坂町が県境を越え圏域に参加
	07	おいらせ町（八戸圏域にも属する）が圏域に参加
	07.27	第1回定住自立圏構想関係市町村長会議10市町村での構想推進および協定内容について市町村長間で合意
	09	各圏域市町村で協定の締結に関し議決
	10.04	上十三・十和田湖広域定住自立圏形成協定 合同調印式
平成25年	02	共生ビジョン懇談会を開催
	03.28	第2回定住自立圏構想関係市町村長会議 共生ビジョンを策定

特に地方圏でこの流れは顕著に表れます。そこで、国は平成20年、市町村が連携して取り組む広域行政のカタチ「定住自立圏構想」の推進を始めました。

十和田市では、三沢市と共同で中心市を結成し、関係町村と、平成24年に「上十三・十和田湖広域定住自立圏」を形成しました。

平成25年3月、圏域の具体的な取り組みを示した「共生ビジョン」を策定しました。



人口減少、少子高齢化。今後の日本社会に突き付けられた現実。十和田市でも人口減少が進み、平成25年3月末には6万5千人を下回りました（左記表参照）。

## 市町村連携のカタチ 定住自立圏構想

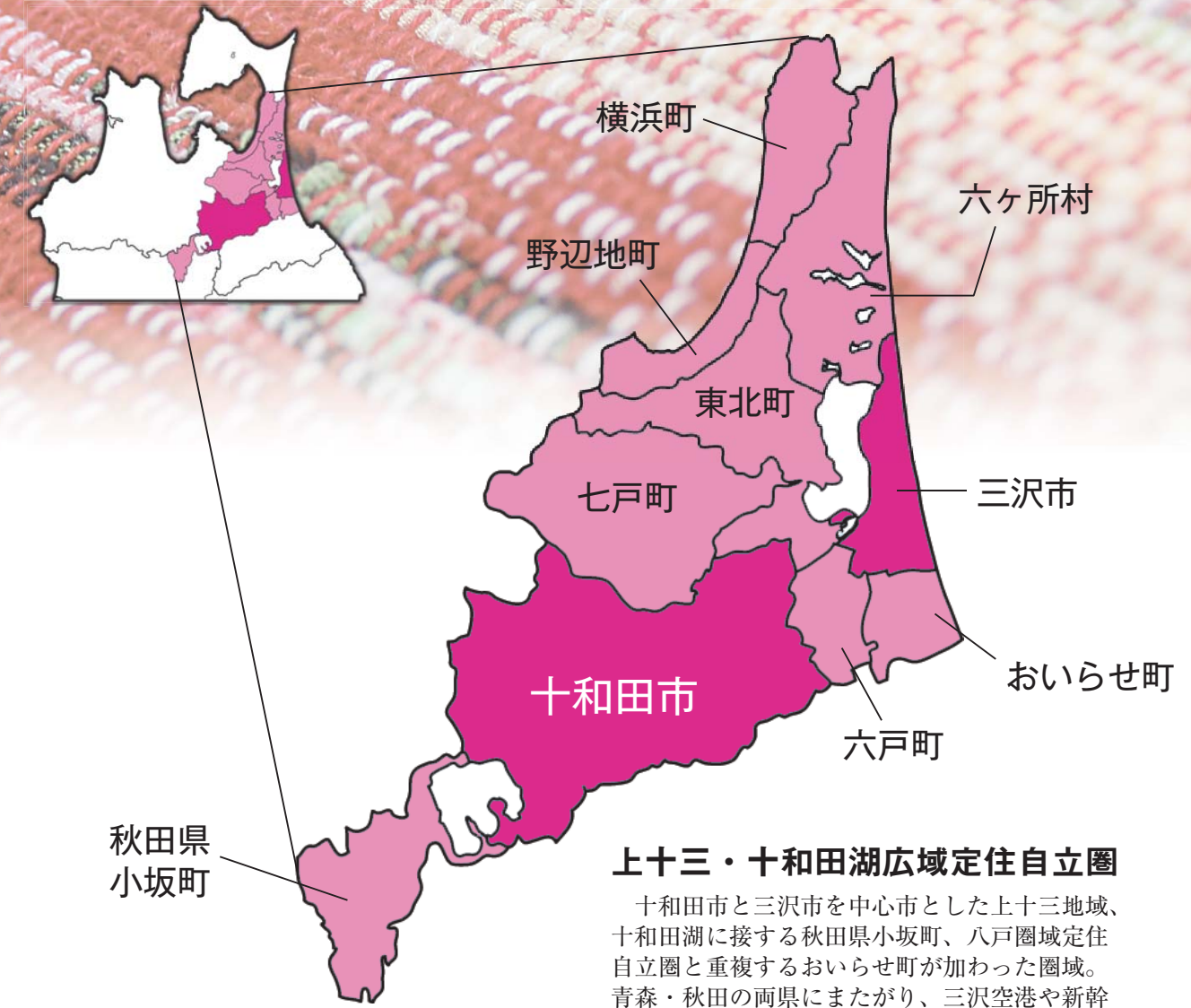
## 圏域のスタートライン 共生ビジョン策定

定住自立圏は、中心市と関係町村が連携し、人口定住に必要な生活機能を確保するための取り組みです。共生ビジョンは、学識経験者や各分野に関係する圏域の住民のみななどで構成される共生ビジョン懇談会委員の意見を踏まえて、策定しました。

共生ビジョンに定める具体的取り組みは、「生活機能の強化」「結びつきやネットワークの強化」「圏域マネジメント能力の強化」の3つの柱に分かれています。そして、医療や福祉、地域公共交通などの分野ごとに合計30事業で構成されています（6・7ページ参照）。

事業の実施は、中心市（十和田市、三沢市）とその事業に関連する町村が取り組みます。期間は、平成25年度から29年度までの5年間で、毎年度見直しを行います。

共生ビジョンの内容は、10年、20年先を見据えた取り組みです。上十三・十和田湖広域定住自立圏は、「できることから着実に」を合言葉に、持続可能な地域づくりに向け第一歩を踏み出しました。



## 上十三・十和田湖広域定住自立圏

十和田市と三沢市を中心市とした上十三地域、十和田湖に接する秋田県小坂町、八戸圏域定住自立圏と重複するおいらせ町が加わった圏域。青森・秋田の両県にまたがり、三沢空港や新幹線七戸十和田駅などの高速交通拠点、豊かな自然や特産品に恵まれ、特色ある観光資源にあふれています。